

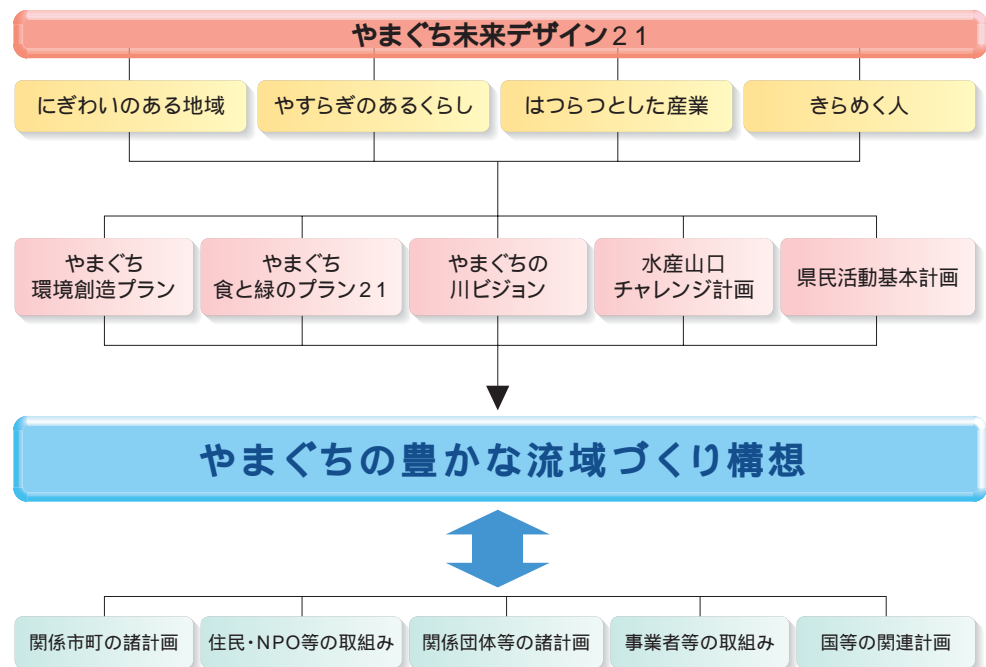
やまぐちの豊かな流域づくり構想(榎野川モデル)の概要

1 策定の趣旨

山口県では、上流域の森林から下流域の干潟や海に至るまでの流域全体を捉えて、流域の住民、事業者、関係行政機関等が協働・連携しながら、山口方式として地域の実情に応じた特色のある流域づくりを進めるため、「やまぐちの豊かな流域づくり構想」を策定します。

2 構想の位置付け

本構想は、県、関係市町村、住民、事業者、各種団体、NPO、大学等流域に関わりをもつ全ての主体が協働・連携して取り組みを進めるための指針でもあります。



3 モデル構想の策定

やまぐちの豊かな流域づくりを推進するため、1つの河川流域をモデルに、構想を策定することとし、県内の他流域においても、この構想を反映することとします。そこで、まず榎野川流域をモデルに構想を策定することとしました。

[榎野川を選定した理由]

- ・ 県内の二級河川では4番目の広さの流域面積であり、中国山地を水源とし、中流の農地や市街地を貫流し、河口域に大きな干潟を形成している山口湾に至る。
- ・ 流域に多くの人口を抱え、中小支流では生活排水による汚濁も見られる。
- ・ 上流域から下流域までの距離が比較的近く、中流域が上流域、下流域に囲まれた盆地という地理的な特性があり、その形は次図のようにイカ型を示している。
- ・ このため、そこに暮らす人々が森・川・海のすべてを身近に感じられ、上中下流域間の連携が進めやすいという特性もある。

構想の対象範囲(流域区分)



上流域：主に森林からなる地域。榎野川流域の主たるかん養域。

中流域：主に農地、市街地、住宅地等が立地し、人口及び産業の集積の大きい地域。
榎野川流域の水利用の中心域。

下流域：海との関わりが強い河口部周辺域（海浜の干潟等を含む）。榎野川流域では
農業的利用が主たる地域。

豊かな
流域づくりの
基本理念

もり・かわ・うみを育むふるさとの流域づくり

ふるさとの川でつながる『循環共生型社会』をめざします

「やまぐちの豊かな流域づくり」においては、上流域から下流域までの流域に関わる全ての主体が協働・連携して、森・川・海を育み、また、森・川・海に育まれながら、『ふるさとの川でつながる循環共生型社会を目指す』こととします。

やまぐちの豊かな流域づくり構想

<基本理念> もり・かわ・うみを育む

課題と基本方針

流域づくりの視点



地域
づくり

現 状 (項 目)

水環境(水質・水量)
流域の土地利用と保水性
自然環境(生物多様性等)

課 題

清流の維持と一層の改善
水量の確保・保水性の確保
廃棄物不法投棄等による環境汚染の未然防止
川の生物の維持・回復
流域の生物多様性の確保
干潟・藻場の再生



くらし
づくり

現 状 (項 目)

災害からの安全性(治水)
水利用 水辺環境と利用
歴史・文化

課 題

河川の治水対策の向上
水の上手な利用
水に親しめる川づくり、人と水の関わりの回復
河川美化の推進
歴史的資産の継承、有効活用
自然や地域との関わりの回復



産業
づくり

現 状 (項 目)

産業構造 農林漁業 地域産業

課 題

農林漁業の振興による地域環境の保全
地産・地消の促進
負荷の少ない循環型農林業の促進
地域資源を活かした商業・観光の振興
地域産業の活性化



人
づくり

現 状 (項 目)

住民団体・NPOの活動
環境学習・環境情報

課 題

流域連携のしくみづくり
川を題材とした環境学習、環境教育の推進
地域の人材の発掘・育成
調査研究や情報発信の推進

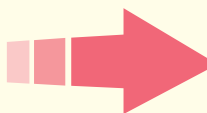
豊かな流域づくりの基本方針

人と水、
豊かな
つながりを
後世に...

- 清流(水質)保全すること
- 流域内の生物のつながりを取り戻すこと
- 流域全体の水循環を健全にすること
- 人と川との関わりをつくり、大切にすること
- 水を育む森・農地を守り、地域産業を活性化すること
- 流域連携のしくみをつくること

榎野川の「豊かな流域」の望ましい姿

住民・事業者等の意識



(榎野川モデル)フレーム

ふるさとの流域づくり

推進施策体系

榎野川流域循環共生プロジェクト

施策の方向性

主な取組み

清流(水質)保全プロジェクト

総合的な清流保全の推進

総合的な清流保全の枠組みづくり
水質維持・改善対策の推進

生活排水対策の推進

汚水処理施設の整備、普及啓発

廃棄物不法投棄等による環境汚染の未然防止対策

廃棄物不法投棄対策、散乱ごみ対策

取組み1

榎野川水系の清流保全対策の推進

取組み2

源流の森づくり(保全・利活用)

生態系保全プロジェクト

生態系の保全・回復

多自然型川づくりの推進
ホタルが自生する川づくりの推進
外来種対策の推進
魚がのぼる川づくり、ピオトープ
豊かな干潟・藻場の再生

取組み3

自然豊かな川づくり

取組み4

山口湾の干潟・藻場の再生

森林の適正な管理・保全の推進

取組み5

森林の適正な管理・保全と創造

健全な水循環プロジェクト

安全・安心な<川>づくりの推進

流域の保水、浸透性の向上
災害に強い安全・安心な森・川・海づくり

水量の確保、水の有効活用の促進

節水、処理水再利用、水の有効利用
水量の維持対策の推進

取組み6

安全で安心できる川づくり

川との関わりプロジェクト

川に親しむ場と機会の提供

流域に親しむイベントの開催・支援
流域の調査研究・情報の収集・発信
親水空間、環境学習空間の整備

取組み7

地域の人に愛され親しまれる川づくり

取組み8

農林産物の地産・地消の促進

地産・地消、地域産業活性化プロジェクト

流域の環境を保全する農林漁業の振興

地産・地消の促進
循環型農林業の促進
農林漁業の振興
循環資源リサイクルシステムの構築

流域資源活用による地域産業の振興

魅力ある観光地づくりの推進
農林漁業と商工業との連携による地域産業の振興
伝統産業の振興

取組み9

循環型農林業の促進・食の循環の推進

取組み10

魅力ある観光地づくりの推進

流域連携プロジェクト

連携・ネットワークの形成

流域の連携・ネットワークの形成
協働型環境保全活動の展開・支援
流域地域通貨の導入
他流域との交流・情報発信

流域づくりを担う人材の育成

人材発掘、情報交換
流域の歴史・文化、自然環境の調査・研究
川を中心とした環境教育の推進

取組み11

環境学習・環境教育の推進

取組み12

地域通貨の導入・流通

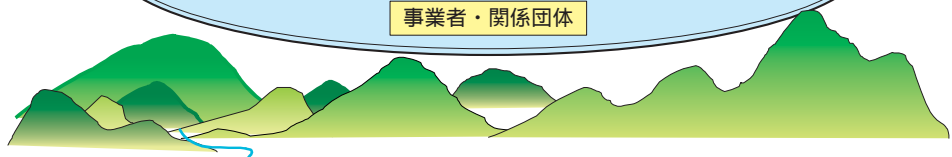
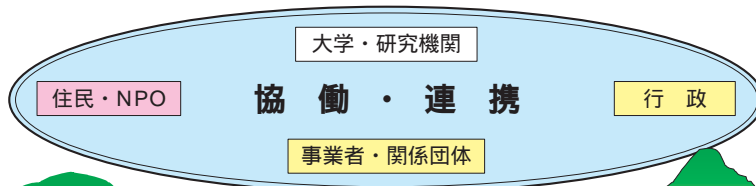
取組み13

流域全体の連携と交流拠点の整備

榎野川の豊かな流域づくりのための施策の推進

榎野川流域に関係する各主体の協働と連携により、『榎野川流域循環共生プロジェクト』に取り組み、榎野川の豊かな流域づくりを推進することとします。そして、その推進の仕組みを「やまぐちの豊かな流域づくり構想（榎野川モデル）」として創設します。

『榎野川流域循環共生プロジェクト』は、「清流（水質）保全プロジェクト」、「生態系保全プロジェクト」、「健全な水循環プロジェクト」、「川との関わりプロジェクト」、「地産・地消、地域産業活性化プロジェクト」、「流域連携プロジェクト」の6つの柱で構成されており、施策の方向性に沿って、13の取組みを推進することとしています。



流域全体

- 取組み1** / 榎野川水系の清流保全対策の推進
榎野川水系の清流を保全するための条例の制定(山口市)
生活排水処理対策
不法投棄等による環境汚染の未然防止対策
- 取組み6** / 安全で安心できる川づくり
榎野川水循環マスタープランの策定
- 取組み8** / 農林産物の地産・地消の促進
- 取組み10** / 魅力ある観光地づくりの推進
榎野川フィールドミュージアム構想
流域マップづくり
- 取組み11** / 環境学習・環境教育の推進
- 取組み12** / 地域通貨の導入・流通
導入モデル事業
- 取組み13** / 流域全体の連携と交流拠点の整備
流域連携ネットワークの組織づくり
榎野川フォーラムの開催
流域交流センターづくり

上流域

- 取組み2** / 源流の森づくり(保全・利活用)
仁保地区四季の森(仮称)の整備
市民による自然にやさしい森づくり
- 取組み5** / 森林の適正な管理・保全と創造
造林事業
保安林指定の促進
間伐材有効利用(魚礁利用等)

中流域

- 取組み3** / 自然豊かな川づくり
魚・水生生物がのぼる川づくりの推進
- 取組み6** / 安全で安心できる川づくり
洪水ハザードマップの作成
未改修区間の整備
- 取組み7** / 地域の人に愛され親しまれる川づくり
ホタルが自生する川づくりの推進
外来種対策の推進
- 取組み9** / 循環型農林業の促進・食の循環の推進
生ごみリサイクルの推進
- 取組み10** / 魅力ある観光地づくりの推進
大内文化まちづくり推進計画

下流域

- 取組み4** / 山口湾の干潟・藻場の再生
干潟機能調査 干潟再生
アマモ場造成実証検討事業
竹格子を用いたアサリ漁場回復事業
住民が楽しめる干潟づくり
豊かな漁場の回復



榎野川流域における循環共生型社会のモデル形成

榎野川水系の清流保全対策の推進

背景とねらい

県では、H10年度に汚水処理施設整備構想を策定し、榎野川流域では、公共下水道や集落排水処理施設、合併処理浄化槽の整備が進められていますが、汚濁負荷量は生活系が占める割合が高いため、特に一部支流では生活排水対策が重要です。

また、全窒素や全リンは増加傾向にあり、富栄養化の進行が懸念されています。さらに廃棄物の不法投棄や有害物質等による地下水汚染を未然に防止するために、総合的な清流保全対策の推進を図ります。



短期的取組み

総合的な清流保全の推進

- 市 町** 「榎野川水系の清流を保全するための条例」の制定 (H15年度)による総合的な清流維持の枠組みづくり
- 住 民** 環境に配慮したライフスタイルづくり・意識の変革
水質保全活動への協力
- 団体・NPO** 河川清掃等清流保全活動の実施
- 事業者** 住民等の指導、行政への協力、支援



生活排水対策の推進

- 県** 汚水処理施設整備構想の推進
竹炭等による水質浄化 (H14年度～)等
- 市 町** 生活排水浄化対策協議会の取組
公共下水道の整備
集落排水処理施設の整備
浄化槽の整備 等
- 住 民** 公共下水道、集落排水処理施設への接続
生活排水による負荷の軽減

廃棄物による汚染の未然防止対策

- 県** 廃棄物不法投棄等防止対策の推進
普及啓発
最終処分場等適正な廃棄物処理施設の整備促進
- 市 町** 普及啓発
最終処分場等適正なごみ処理施設の整備
- 団体・NPO** 廃棄物の排出抑制
- 住民・事業者** 行政への協力

中長期的取組み

総合的な清流保全の推進

- 廃棄物の適正処理の仕組みづくり
窒素・リンの削減
- 生活排水処理率を85%へ (H22年度)
汚水の高度処理

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

源流の森づくり(保全・利活用)

背景と ねらい

榎野川流域では、「榎野川の源流を守る会」、「マロニエの会」、「四十八瀬川をきれいにする会」等の源流域の保全活動の取り組みが盛んに行われています。

さらに、仁保地区での源流保全のための住民運動の高まりを背景として、流域全体での各主体の協働・連携により、源流域の保全・利活用を図っていきます。



短期的取組み

源流の森の公園整備・管理

- 源流の森公園の整備
- 市 町
 - ・住民(団体)との協働・連携のもとに、仁保地区揚山の源流部を「(仮称)四季の森公園」として整備(H14,15年度)・管理
 - 団体・NPO
 - ・整備内容:林道、シラカバ、モジ等の植林、4ha
 - 住 民
 - ・山口市が住民からの指定寄付(1,210万円)を受け事業実施



自然にやさしい森づくりの継続

- NPO等による取組
- 団体・NPO
 - ・落葉広葉樹の植樹、草刈り等の管理
 - 住 民
 - ・巣箱かけ、里山づくり(炭窯、子供の遊び場)
 - ・普及啓発

中長期的取組み

源流域の保全・利活用の仕組みづくり

(仮称) なりものの里構想の推進(H16年度以降)

- ・松柄地区の源流部において、住民主体で、市民参加型により、ピオトープ、ふれあいの森等の整備

より多くの源流域の保全・活用を目指し、水源基金等、流域で保全していく仕組みづくり

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

自然豊かな川づくり

背景と ねらい

榎野川は、農業用水の確保のために多くの堰があり、近年、魚道が整備されてきましたが、いまだ魚道の構造的な問題や魚道の未設置から、アユ等の遡上阻害など生物の生息環境が分断されている箇所がみられます。一方、一の坂川では、優れた多自然型川づくりの事例となるホタル護岸工法が全国に先駆けて行われた歴史もあります。今後は、生き物の生育・生息しやすい環境に配慮した河川を整備し、自然豊かな川づくりを進めます。



短期的取組み

多自然型川づくりの推進

住民

県

大学等

生物の生息・生息地に配慮した河川の整備
一の坂川のホタル護岸工法を下流域へ拡大、他地域への応用
生物多様性を確保する構造・工法の調査・研究・提言
官学共同研究の実施（H10年度～）

山口県河川課ホームページ（URL：<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/kasen/>）を参照



魚・水生生物がのぼる川づくりの推進

県

事業者

エビ、カニ等の甲殻類にも配慮した多様種対応型魚道の設置
間伐材利用魚礁の設置
（H14年度～）

事業者

アユの遡上阻害地点等問題箇所
の把握（漁協等）
魚道の水量調節

外来種対策の推進

県

事業者

住民

団体・NPO

外来種の分布状況把握
ブラックバス等外来種撲滅の推進

ブラックバス等外来種撲滅の
推進（漁協等）

ブラックバス等外来種の撲滅
への協力

中長期的取組み

生態的ネットワークの形成

上流部の森林、河川や農業用水路等の水辺や周辺の緑、河口の自然までを有機的につなぐ生態的（エコロジカル）ネットワークの形成

注）：既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。：今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

山口湾の干潟・藻場の再生

背景とねらい

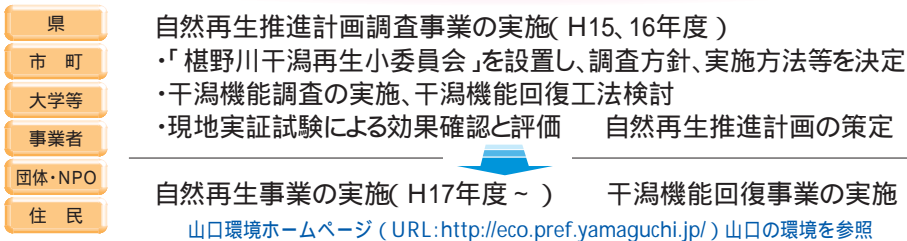
山口湾(榎野川河口部)では、浮泥の流入、生活排水対策の遅れによる富栄養化等により、ヘドロやカキ殻の堆積、アマモ場の減少がみられるなど、干潟生態系の改変・改質が生じています。また、山口湾は、アサリやエビの好漁場でしたが、近年漁獲高は激減しており、この原因としては干潟環境の悪化のほか、トビエイの食害等が考えられ対策が必要です。

このため、流域全体での各主体の協働・連携により、山口湾の生物多様性の確保、干潟機能の回復、浅海域の保全等を図ります。

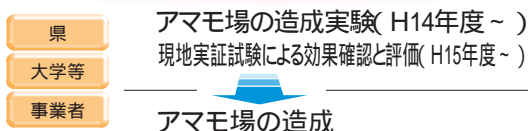


短期的取組み

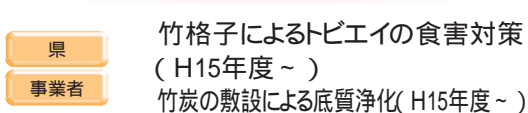
豊かな干潟の再生



豊かなアマモ場の再生



竹格子を用いたアサリ干潟漁場の回復



中長期的取組み

豊かな漁場の回復

アサリが減少した原因の究明・アサリの増殖耕耘や覆砂等の効果的な取組みの実施
アマモ場の造成等による浅海域環境の保全



沿岸生態系のモニタリング

干潟・藻場のモニタリング体制の整備
干潟・藻場のモニタリングの実施



住民が楽しめる干潟づくり

潮干狩り等を楽しめる干潟公園等の整備



生物多様性確保の推進

野鳥や水生生物が多い干潟・藻場づくり
周辺環境に配慮した海岸保全施設の整備



きらら浜自然観察公園ホームページ
(URL: <http://www6.ocn.ne.jp/%7Ekirara-h/>)
山口環境ホームページ
(URL: <http://eco.pref.yamaguchi.jp/>)
レッドデータブックやまぐちを参照

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

森林の適正な管理・保全と創造

背景と ねらい

椹野川流域の山林は、民有林が多いことから、採算性の問題等で間伐や保育の手遅れとなる森林が増加し、荒廃が危惧されています。

このため、水源のかん養など森林の多様な働き
の阻害が危惧されることから、森林の適正な管理・
保全を実施できるようにし、水源の森の保全対策
を図ります。



短期的取組み

造林補助事業等による水源地の森林整備

- 県
 - 市 町
 - 事業者
 - 団体・NPO
- 造林事業の推進
水源地域整備事業の推進



保安林指定の促進

- 県
- 水源地の森林を計画的に
保安林に指定

県民参加の森づくりの推進

- 県
 - 住 民
 - 事業者
 - 団体・NPO
- 森林ボランティア活動等の森
づくりに積極的に参加
(H14年度～)

山口県林政課ホームページ (URL: <http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/rinsei/index.htm>) を参照



中長期的取組み

流域の関係者で保全していく仕組みづくり

社会全体で支える仕組みづくりの構築



注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

安全で安心できる川づくり

背景と ねらい

榎野川は昔から洪水被害の多い河川でしたが、荒谷ダムが完成したことにより流水の安定化が図られ、大規模水害の発生は少なくなりました。

しかし、近年異常気象が多発していることや、中流域から下流域にかけて人口、資産が集中していることから、より安全な川づくりを行います。



短期的取組み

護岸工整備事業の実施

住 民

県

大学等

計画規模1/30確率を目指した河川改修の実施
官学共同研究の実施（H10年度～）

洪水ハザードマップの作成

市 町

大学等

洪水を想定して地図上で浸水の程度と避難所などを図示したハザードマップを作成（H14、15年度）

未改修区間の整備

県

市 町

住 民

支川仁保川の高井堰から約4 km
上流区間の未改修区間の整備

山口県河川課ホームページ（URL：<http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/kasen/>）を参照

中長期的取組み

榎野川水循環マスタープランの策定

従来の治水の視点に加えて、平常時の水環境、自然環境、河川とのふれあいなどの各分野における基本的な対応方針を策定

流域の保水・浸透性の向上

雨水の貯留対策、市街地における浸透対策

水の有効活用の促進

下水道との連携、処理水再利用及びび水の有効活用

注）：既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。：今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

地域の人に愛され親しまれる川づくり

背景とねらい

榎野川中流部は、ゲンジボタルの生息地として国の天然記念物に指定されています。現在、一の坂川やいくつかの支流では、住民や団体の方々の増殖運動の結果、見事なホタルの乱舞が毎年見られます。また、榎野川の流域では、ふしの川フェスティバル、榎野川漁協祭り、宮野ホタル祭りなど川と親しむイベントがたくさん開催されています。今後とも、人と自然とのふれあいを促進するために、地域の人により愛され親しまれる川づくりを進めます。



短期的取組み

親水護岸等の整備

- 県
- 市 町
- 住 民

地域の方々が親しみやすく、うるおいのある親水空間の創出
河川の草刈りなどによる、河川景観の美化

ホタルが自生する川づくりの推進

- 県
- 住 民
- 団体・NPO
- 市 町

ホタル水路によるホタルの定着実験（H13年度～）

ホタルの生息地の保護、増殖活動の継続
天然記念物の保護対策



流域に親しむイベント等の開催

- 県
- 市 町
- 団体・NPO
- 団体・NPO
- 住 民
- 事業者

第58回「全国野鳥保護のつどい」の開催(H16年5月16日)

- ・場所：きららスポーツ交流公園
- ・記念式典：表彰、アトラクション等

各種イベントの主催・参加



きらら浜自然観察公園のマスコット

中長期的取組み

地域でめんどろをみる川づくり

ふるさとに愛着を持ち日頃から川に親しみ、地域住民がめんどろをみる川づくりの構築
・ワークショップの活用等

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

農林産物の地産・地消の促進

背景とねらい

新鮮で安全・安心な農産物へのニーズに応えるため、上流から下流までの多様な自然条件を活かした多彩な農産物の生産を進めるとともに、都市の消費地と農山村部が近接する特性を活かし、生産者と消費者が顔の見える関係を構築し、地域の身近な農林産物を地域内で消費する地産・地消の取り組みを進めます。



地産・地消は地元を愛する心が育てます。

短期的取組み

地域農産物の利用促進

- 県 販売協力店における「やまぐちコーナー」の充実等
- 団体
- 事業者 学校給食など大口需要先の
- 住民 利用促進



やまぐちコーナー

需要に応える多彩な農産物づくり

- 県 生産を支える多様な担い手の育成
- 団体 安定供給のための生産条件の整備
- 事業者

食と緑を育む協働活動の展開

- 団体 山口地域食と緑の県民フォーラム(H13年度～)
- 事業者 やまぐち農産物ファン倶楽部(H13年度～)
- 住民 消費者・生産者の交流会

新鮮・安全・安心を基調とした「地産・地消」の実現

生産・流通販売・消費が協働した農産物供給体制の整備

みつまて! やまぐち農産物愛用推進委員会の設置・運営

県産農産物のPR・広報

流通・加工関係者、消費者との連携強化

県産農産物の販売促進と需要拡大

ホームページ (URL: <http://www.mitsumete.net/main/index.html>) を参照

中長期的取組み

地産・地消の循環システムの構築

「通い容器(再使用可能なコンテナ等)」を利用した流通システムづくり
 地域通貨を介した農産物流通や援農のシステムづくり
 流域内で流域材を使用する仕組みづくりの構築

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

循環型農林業の促進・食の循環の推進

背景と ねらい

安全で質の高い農産物の安定生産及び環境への負荷を低減するため、農業が本来有する自然循環機能を活かした循環型農林業の普及・定着を図ります。



短期的取組み

資源の循環利用の促進

- 県 家畜排せつ物のたい肥化と土づくりの促進
- 事業者 有機質資源の利用の促進
・生ごみのたい肥化、樹皮の園芸資材化等
農林業用資材の適正処理

食の循環の推進

- 県 生ごみリサイクルの推進 (H14年度～)
- 市町 県庁、学校給食、コプやまぐち
- 事業者 乾燥生ごみ
- 住民 JAたい肥センター(仁保)
- 団体・NPO たい肥使用(農家)
- 米・野菜等

自然循環機能を活かした生産の普及・定着

- 県 循環型栽培技術の導入、循環型農業産地づくり等を柱とする技術開発
- 大学等 循環型農林業者の育成
推進支援体制の整備

環境と健康に配慮した農作物づくり

- 事業者 農薬使用量の削減、肥料の適正使用による安全・安心な農作物の生産

山口県の循環型農業ホームページ (URL: http://www.nourin.pref.yamaguchi.jp/eco_recycle/index.htm) を参照

中長期的取組み

食の循環の推進

食品廃棄物の発生抑制・リサイクルシステムの構築

バイオマスエネルギーの利用

森林資源等のバイオマスエネルギーとしての利用等



注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

魅力ある観光地づくりの推進(榎野川フィールドミュージアム構想)

背景と ねらい

榎野川流域は、大内弘世が一の坂川を京都の賀茂川にみたくて、京風のまちづくりが行われた歴史がある場所で、観光は重要な産業の一つです。全国に通用する魅力ある観光地づくりとして流域を整備するとともに、住民に対して良さを発信していく必要があります。

また、榎野川流域では、「山口の川」という本や「やまぐち面白観察地図」という観光マップなど優れたマップが作成されていますが、すべて一部の地域についての情報であるため、今後は、流域を一体として考えやすいように流域全体の情報の共有化を図っていきます。



短期的取組み

流域マップづくり

- 住民
- 団体・NPO
- 県
- 市町

流域のことがよくわかるオリジナルの情報マップを作成
(H16年度～)



大内文化まちづくり推進計画

- 市町
- 事業者

街の活性化と歴史と文化の香り高い街並みの保存と再生

- ・大内文化の特定地域を設定
- ・歴史資源の保全活用
- ・歴史を学ぶ拠点施設の整備
- ・街並み景観の保全
- ・伝統産業の振興

山口県ホームページ観光 (URL: <http://www.pref.yamaguchi.jp/gyosei/kensaku/kankou.htm>) を参照



中長期的取組み

情報の普及・共有のシステムづくり

双方向で書き込みができる情報システムの構築

新しい観光手法の開発

グリーンツーリズムや川舟観光等、魅力的な仕組みづくりの推進



榎野川フィールドミュージアム構想

統一感のある案内やマップの整備、ホームページの開設、拠点の整備、各拠点の連携

注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

環境学習・環境教育の推進

背景と ねらい

榎野川では、既に学校や地域等で様々な環境学習・教育の取組みが行われていますが、ふるさとの榎野川を愛し、行動する次世代を担う人材を育成するには、川や流域の自然と親しむ機会をつくり、これらとふれあう環境学習が効果的です。

このため、環境学習の空間づくり(ハードの整備)と環境学習プログラムの普及および榎野川流域の自然や歴史・文化、先人の川との関わりなどの情報整備(ソフトの整備)を進めるとともに、これらを推進する指導者の育成を図ります。



短期的取組み

山口県環境学習基本方針の推進

県	環境学習の支援・指導者の育成
市・町	・環境学習指導者バンクを活用した指導者の派遣、多様な学習指導者の育成・確保
団体・NPO	環境学習プログラム、こども環境学習プログラムの実践
住民	環境ふれあいマップの活用(H15年度～)
事業者	山口環境ホームページ(URL: http://eco.pref.yamaguchi.jp/) による情報発信

環境学習プログラム等は山口環境ホームページの環境玉手箱から入手可能です。



地域におけるすぐれた環境学習の継続・発展

住民	地域で実施されているすぐれた環境学習の継続・発展
団体・NPO	いきいきエコネットワーク山口等指導者による体験学習の展開(H14年度～)

地域間の協働・連携による環境教育の実践

効果的な自然体験学習プログラム等の 検討・実施、研究・開発

団体・NPO	きらら浜自然観察公園等における調査研究
大学等	効果的なプログラム等の検討・実施、研究・開発
県	

中長期的取組み

流域全体で連携した環境学習の推進

すぐれた環境学習の流域内連携、他地域とのネットワーク化
多様な学習機会の場の充実



注) : 既に取り組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取り組む、又は取組みが必要なもの。

地域通貨の導入・流通

背景と ねらい

現在、日本全国で、ものやサービスを特定の地域やグループの中で循環させる「地域通貨」の導入が進められています。地域の活性化を図り、流域の上下流の連携の結びつきを強くするためには、人の交流を促進し、市場では成り立ちにくい価値（ボランティア活動等）を支える仕組みづくりが必要であることから、その手段として地域通貨の導入（モデル実験）を図ります。



短期的取組み

地域通貨導入モデル実験

団体・NPO
県
事業者

地域通貨を使用した流域づくりのモデル実験（H15年度～）
モデル実験：実施期間：3～6ヶ月
実施地域：特定地区を中心として展開
対象範囲：山口市・小郡町・（秋穂町、阿知須町）



地域通貨の持続的発展

団体・NPO
県
事業者

モデル実験の効果の検証
上中下流が連携し、地域通貨活用による環境保全活動の活性化



中長期的取組み

地域通貨を活用した地域産業の活性化、仕組みづくり

地域通貨により、地域循環型経済を活性化する仕組みづくり（地域通貨システム）の構築
流域全体で地域通貨が流通する、流域が一体となった地域づくりの推進

注）：既に取組んでおり、継続して取り組むもの。：今後取組む、又は取組みが必要なもの。

流域全体の連携と交流拠点の整備

背景とねらい

榎野川では、それぞれの地域で、様々な団体の活動は盛んですが、榎野川全体での連携（流域ネットワーク）は現在までのところ組織されていません。今後、流域が一体となり流域づくりを進めるために、連携組織づくり、交流拠点整備、流域づくりを担う人材の育成等を図ります。



短期的取組み

流域団体等の情報交換・協議の場の設定

- 県 やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会による本構想の推進・進行管理
- 市 町
- 大学等
- 事業者 シンポジウムの開催(H15年度)
- 団体・NPO 流域のNPO等の情報交換の場づくり

人材育成・情報の発信

- 県 流域づくりに関連する各種研修会の開催
- 市 町
- 大学等 山口環境ホームページ等に流域づくりに係るコンテンツの作成(H15年度 ~)
- 団体・NPO

流域連携ネットワークの組織づくり

- 団体・NPO
 - 事業者
 - 住民
- 流域の活動団体や事業所、住民等、榎野川に関心を持つ人が連携し、持続的な発展をしていく山口方式のネットワーク組織の形成
ネットワーク組織による様々な活動の展開、情報発信
流域地域通貨の導入への取組

榎野川フォーラムの開催

- 県
 - 団体・NPO
 - 大学等
 - 住民
- 榎野川フォーラムの開催等により、流域づくりの核となる人材の育成、流域情報交換及び流域研究

中長期的取組み

流域交流センターづくり

流域情報の集積・管理できる流域づくりの拠点となる流域交流センター(仮称)づくり
ふるさと榎野川を愛し、行動する次世代を担う人材の育成

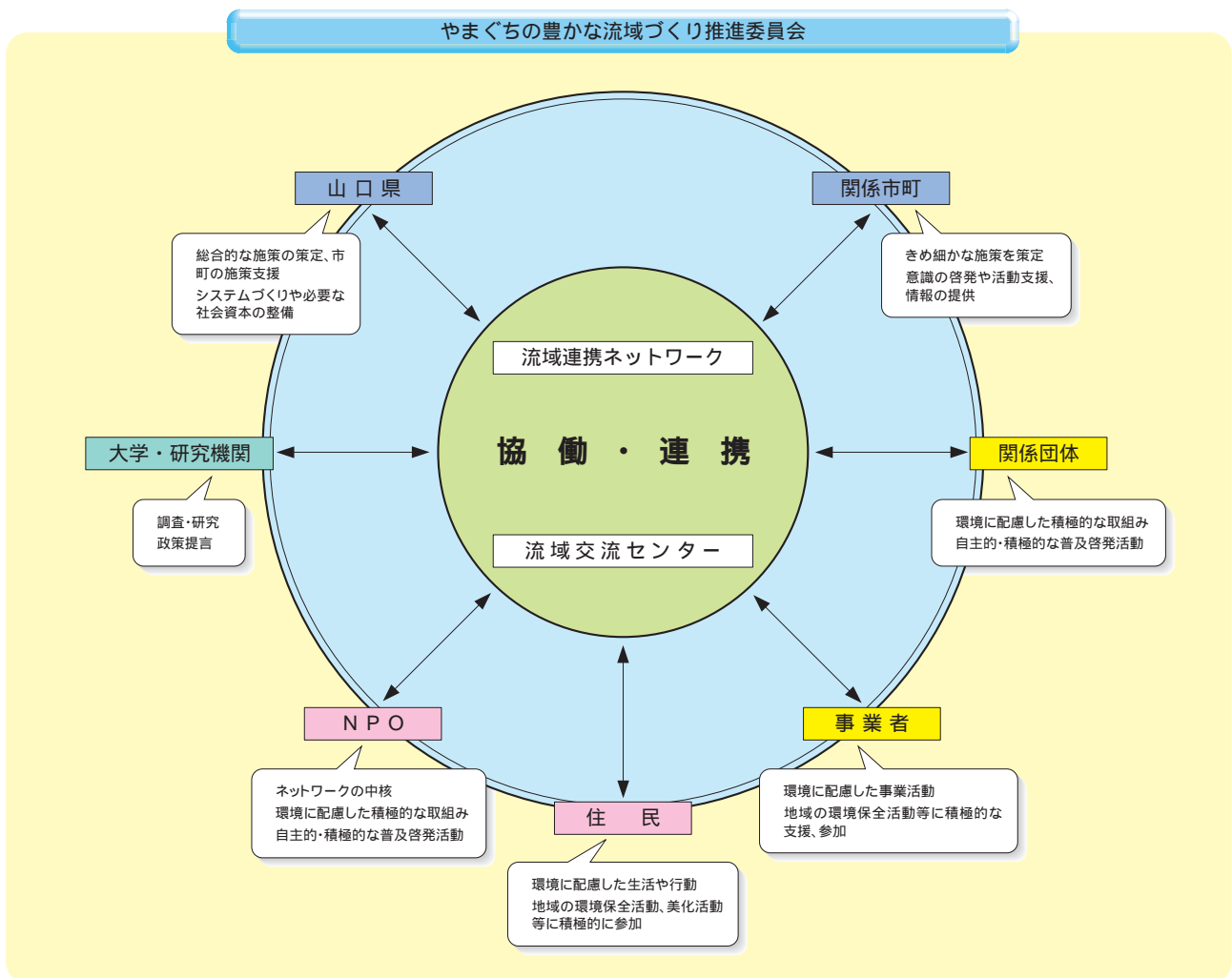
注) : 既に取組んでおり、継続して取り組むもの。 : 今後取組む、又は取組みが必要なもの。

構想の推進体制と進行管理

本構想は、産学官からなる『やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会』を中心に、既存のNPO・民間団体等との協働・連携を図りながら推進していきます。

また、県は、本構想に掲げるプロジェクト（主な取組み）や各主体のモニタリングの実施状況等について、定期的に把握・評価し、その結果を「やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会」等に報告するとともに、「山口県環境白書」「山口環境ホームページ」等を通じて住民、事業者、NPO等へ公表し、広く意見・提言を求めながら、構想の進捗状況の管理を行います。

なお、社会情勢の変化、水環境保全技術の進展、新たな制度の創設等豊かな流域づくりの観点から本構想を変更する必要がある場合は、当推進委員会において検討し、より良い構想に変更することとします。



山口県環境生活部環境政策課

753-8501 山口市滝町1-1
TEL 083(933)2690 FAX 083(933)3049

<http://eco.pref.yamaguchi.jp/> (山口環境ホームページ)
E-mail: a15500@pref.yamaguchi.jp